

事故を防ぐために

● キャリーバッグは自分で思っている以上に長さを取っています。それを常に意識し、回りの安全に配慮しましょう。

● 駅などの人の多い場所や混雑している場所では、自分の引いているキャリーバッグが周囲の人の視界に入らなかったり、気づかれにくくなっています。できるだけ引かず、手で持ったり、引く場合であっても自分の近くに寄せて引きましょう。

● 階段や電車の乗降口など、段差のあるところでは引かず、手に持ちましょう。

● エスカレーターなどに置く場合は、万が一に備え落下しないように十分注意しましょう。



● 本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。

<http://www.kokusen.go.jp/kiiken/index.html>

● 本内容の一部について、詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、協力病院等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。

特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。

商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。

無断転載はお断りいたします。



〒108-8602 東京都港区高輪3-13-22 TEL.03(3443)1208 ● 2010年3月発行

くらしの危険



Number

294

キャリーバッグでの事故

最近、街中で“キャリーバッグ”や“キャスターバッグ”などと呼ばれる車輪付きのバッグを引いている人を多く見かけます。

キャリーバッグは、重い荷物でも持ち運びがしやすく便利です。

小型のものもあり、数千円程度から購入することもできます。

そのため、旅行だけでなく、ビジネスやショッピングなど、

日常的に使う人も増えており、利用者層が

幅広くなっています。

一方で、駅など人の多い

場所では使い方に

注意を払わないと

他人にぶつけてしまう

こともあります。



キャリーバッグの事故の傾向

危害情報システムには、キャリーバッグの人氣に伴い事故情報も寄せられ始めています。

事故の特徴として、他人のキャリーバッグと接触してけがをさせられた、あるいは、相手に

けがをさせてしまったというものが多くなっています。

使い方に注意を払えば防ぐことのできる事故が多いことも特徴です。

こんな事故が起きています

繁華街で

ケース 1 繁華街を歩いているとき、隣を歩いていた人が引いていたキャリーバッグがぶつかり、転んでけがをした。バッグを引いていた人に病院に連れて行ってもらった。幸い打撲症で済んだ。
(50歳代 女性)



駅で

ケース 2 旅行中の駅で、若い男性が前を歩いており、その後ろを歩いていたところ、突然その男性が立ち止まったか方向転換をしたため、男性の引いていたキャリーバッグに激突し、頭から転倒した。救急車で病院に行き、全身打撲と診断された。治療費は男性と話し合い折半した。
(60歳代 女性)

ケース 3 新幹線を降りた時、前方の乗客のキャリーバッグに右足を取られて転倒した。右下腿に擦過傷と腫れがあり、レントゲンを撮ったところ、右の脛骨と腓骨の骨折と診断され、入院することになった。
(50歳代 男性)



階段で

ケース 4 主人が3年前に購入したキャリーバッグを自分が出張で使った。駅の階段を降りていたとき、突然持ち手が取れてキャリーバッグが階段を落ちていき、階段の下にいた人の腰にぶつかって、入院するけがをさせてしまった。旅行に二度ほど使っただけのバッグであった。
(20歳代 女性)

エスカレーターで

ケース 5 空港の長い下りエスカレーターで、上からキャリーバッグが落ちてきて転倒し、けがをした。
(60歳代 女性)



キャリーバッグを引いている時、後方に思った以上の長さが取られているので注意!!

危険情報室が任意に選んで購入したキャリーバッグ4銘柄を用いて、キャリーバッグを引いた人がどれくらいの長さを取っているかを測定してみました。身長152cmの女性が通常歩行している時に、足のつま先からキャリーバッグの最後方までを測定したところ、平均値は137cm、最大では156cmの長さが取られていました。

駅など人の多い場所や混雑している場所では、自分の引いているキャリーバッグが周囲の人の視界に入らなかったり、気づきにくいこともあるため、一層の注意が必要です。

鉄道や航空各社などでも注意を呼びかけています!

キャリーバッグは駅や空港などで使われることが多いため、鉄道や航空会社でもキャリーバッグの取り扱いに注意を呼びかけています。

JR西日本
<http://www.westjr.co.jp/railroad/service/manner/>

また航空機では、キャリーバッグを機内持ち込みにする乗客が増え、機内の荷物棚に収納できずに出発が遅れたりするケースが続発したため、2009年12月1日より、手荷物の持ち込みに関するルールが統一化・厳格化されています。

規定を超える大きさの荷物は、保安検査場を通過できなくなります。